

風以時節爲名

〔八幡愚童訓〕弘安四年夏比蒙古大唐高麗以下國々兵共ヲ驅具テ三千餘艘大船數千萬乘列テ來ケル○中略 去程十日餘比西國早馬著テ申去七月晦日夜半ヨリ乾風オビタシク吹テ閏七月一日賊船悉漂蕩シテ海ニ沈ヌ

〔撮壤集〕天風雨類 韶風春風 東風同 黃雀同 薰風夏 南風同 涼風同 西風秋 金

風同 野分同 朔風冬 北風同 木枯同

〔物類稱呼〕天風かぜ 畿内及中國の船人のことばには西北の風をあなせと稱す、二月の風ををに北といふ、三月の風をへばりごちと云、四月未の方より吹風をあぶらませと云、五月の南風をあらはへといふ、六月未の風をえらはへといふ、土用中の北風を土用あいといふ、七月未の風をおくりませと云、八月の風をあをぎたといふ、九月の風をま西といふ、十月の風をほしの入こちといふ、十一月十二月の頃吹風を大西と云、略伊勢國鳥羽或は伊豆國の船詞に、二月十五日前後に一七日ほどいかにもやはらかに吹く風をねはん西風といふ、但し年毎に吹三月土用少し前より南風吹あぶらまじといふ、四月よき日和にて南風吹おほせといふ、五月梅雨に入て吹南風をくろはへといふ、梅雨半に吹風をあらはへと云、梅雨晴る頃より吹南風をえらはへと云、六月土用半過より北東の風一七日程吹年有ごさいと云、六月十六七日伊勢の祭禮有出六月中旬東風吹年ありばんごちと云、それ過てより南風吹をくれまじといふ、八月の風をあをぎたと云、はじめは雨にそひて吹後又雁わたしとも云、十月中旬に吹く北東の風を星の出入といふ、夜明に入時吹也又大風には二月吹を具よせと云、正月の節より四月三月四月東南の風吹をなたねづゆと云、四五月吹東南の風をたけのこづゆといふ、八月に吹風を野分といふ、正月の節よめ前後に十月西風吹神わたしと云、霜日の荒といふは廿三日より近江國湖水にて風の定らぬ事を論義といふ、日和風をといてと云、湖上の風を根わたしと云、秋冬の風を日あらしと云、春